

2018 年度(第 41 回)日本形成外科学会専門医認定審査についての公示

2018 年 5 月 20 日
一般社団法人 日本形成外科学会
理事長 中塚 貴志
専門医認定委員長 木股 敬裕

一般社団法人日本形成外科学会専門医認定委員会は日本形成外科学会専門医制度ならびにその細則に基づいて第 41 回認定審査を下記の要領で実施しますので、有資格者はお申し込みください。

入会后 4 年以上の形成外科研修歴（臨床研修 2 年の後）と、日本国医師免許証取得後 6 年以上であることが必要です。（入会前の形成外科研修を研修歴に含めることはできません）

1. 専門医申請書（本年度より提出媒体および申請方法が変わります。ご注意ください）

平成 29 年度までは所定の申請書類を学会事務局に提出していただきましたが、平成 30 年度（第 41 回認定審査）からは「電子媒体での提出を主とする」ことを予定しています。詳細は、日本形成外科学会誌 8 月号に掲載予定の「手引き」でご案内いたします。ご注意くださいようお願いいたします。

申請書のデータは 8 月中旬に、下記 URL よりダウンロード可能となる予定です。

< <http://www.jsprs.or.jp/specialist/shorui/index.html> >

2. 専門医受審者の資格

専門医受審者の資格は、以下の日本形成外科学会専門医制度細則第 18 条に定める条件を充足する医師で、2018 年度年会費を **2018 年 10 月 31 日（水）** までに納入済の者に限ります。

- 日本国医師免許証取得後 6 年以上であること
- 4 年以上ひきつづいて日本形成外科学会正会員であること （入会年月日をご確認ください）
- 臨床研修 2 年の後、学会が認定した研修施設において通算 4 年以上の形成外科研修を行うこと（ただし、本学会入会以前の形成外科研修歴をこの研修期間に含めることはできません）
- 第 19 条に定める研修を修了し、第 20 条に定める記録を有するもの（なお、同時期に複数の施設で研修していたとする研修歴は認められません）
- 日本形成外科学会主催の春季・秋季学術講習会受講証明書を 4 枚以上保有すること
研修の年限は申請書提出締め切り日より逆算してください。有資格者のリストアップと通知はいたしませんのでご注意ください。

3. 申請手続き方法（下記のように電子媒体での提出を予定していますが、今後、若干の変更の可能性もあります。詳細は 8 月号掲載予定の「手引き」をご覧ください）

- 必要書類データ
（申請書類のデータは必ず保存してください。なお、申請書類データは 3 年間だけ事務局で厳重に保管され、その後は破棄されます）
 - 専門医申請書データ（データ入力後、自著で記入、押印したものを PDF データ化し提出）
 - 履歴書（最終学歴以降）データ

- 3) 形成外科に関する論文1編の別冊のPDFデータ
※委員会が認める論文の掲載誌の条件は、年に2回以上発行されており、査読がある（日本語または英語の）学術雑誌（Journal）を指し、Proceedingsなどは認められません。ただし、PubMedで検索可能なオンラインジャーナルについては発行回数による制限はありません。
また、入会前に掲載された論文は対象外となります。
- 4) 経歴（在籍）証明書IおよびII、研修歴一覧表データ
- 5) 春季・秋季学術講習会受講証明書（学術研修会、インストラクショナル・コース修了証も可）
PDFデータ **※今年度は4枚必要です。**
- 6) 300症例の一覧表（細則第20条第1項）データ
- 7) 20症例の症例記録（細則第20条第2項）データ
- 8) 10症例の所定の病歴要約（細則第20条第3項）データ
- 9) 日本国医師免許証のコピーのPDF
- 10) 審査料50,000円の納付書類のコピーのPDF（「払込取扱票」右側の「振替払込請求書兼受領証」のコピーのPDF）

以上を一括してセキュリティUSBメモリーに保存し暗号化したものを、専門医認定委員会宛に書類等とともに書留に準じた方法（レターパックなど）でお送りください。（詳しい送付方法については8月号掲載予定の「手引き」をご参照ください）

- b) 審査料50,000円（資格審査料30,000円を含む）
金融機関備え付けの振替用紙で本委員会郵便振替口座へお振り込みください。
なお、既納の審査料は原則として返還しません。
※通信欄に「専門医認定審査料として」とご記載ください。

【ゆうちょ銀行から送金の場合】

郵便振替口座：00140-8-51198
加入者名：日本形成外科学会 認定医認定委員会

【他の金融機関から送金の場合】

銀行名：ゆうちょ銀行
支店名：〇一九店（ゼロイチキョウ店）
預金種目：当座
口座番号：0051198

- c) 申請書提出期間
2018年9月15日（土）～**2018年10月31日（水）【消印有効】**
（ただし、事務局に直接提出する際は17時必着です）
***昨年までより早い締め切りとなっていますのでご注意ください。**
- d) 提出先住所
〒169-0072 東京都新宿区大久保2-4-12 新宿ラムダックスビル9階
日本形成外科学会 専門医認定委員会 宛

4. 試験日および試験会場 **2日にわたって審査を行う予定です**

※ただし、口頭試問については2日のうち、いずれかの1日が割り当てられます。

《筆記試験》

2019年1月18日（金）13時00分開始予定

《口頭試問》（面接日程は12月31日までの連絡を予定しています）

2019年1月18日（金）～19日（土）予定

会 場：AP 品川

東京都港区高輪 3-25-23 京急第2ビル TEL：03-5798-3109

JR 品川駅徒歩3分

5. 認定審査の方法

- 1) 提出された申請書類の審査を行い、資格の有無を決定します。（資格審査）
- 2) 有資格者と確認された申請者について、形成外科的一般知識に関する筆記試験、ならびに主に研修記録に関連した口頭試問を行います。（試験審査）
- 3) 筆記試験と口頭試問を上記日程にて行い、両者および書類審査を含めた総合判定により合否を決定します。

審査の結果は、専門医認定委員会から本人に直接通知します。

合格者は、登録料 30,000 円を所定の口座にご入金ください。その後、理事長が学会の専門医登録原簿に登録のうえ公示し、認定証を交付します。

【注】

※専門医試験問題は会員専用ページから閲覧可能です。

会員専用ページの ID とパスワードは年会費請求書に同封されています。ご不明な場合は事務局へお問い合わせください。

< http://www.jsprs.or.jp/member/members_1/ >

試験問題の内容が例年 8 月頃更新されますので、随時ご確認ください。

※毎年問題の一部が修正、加筆され、また新問題が追加されます。さらに、2018 年度からは新たに図式問題（写真や XP などの臨床画像や検査結果を提示した問題）が追加される予定です。

※専門医認定審査に関する Q & A をホームページに掲載していますので、必ずご一読ください。

< <http://www.jsprs.or.jp/member/specialist/pdf/Q&A.pdf> >

6. 参考資料（日本形成外科学会専門医制度および同細則より抜粋）

日本形成外科学会専門医制度第 3 条（専門医の認定）

日本形成外科学会（以下学会という）は、正会員の中、医師であって、学会の認定する施設において、所定の修練を行い、形成外科における知識と技能に優れたものを審査の上、学会専門医として認定し、専門医証を交付し、専門医登録簿に登録する。

同細則第 18 条（専門医申請資格）

専門医申請資格は、以下の各項を充足するものとする。

- (1) 6 年以上日本国医師免許証を有するもの
- (2) 臨床研修 2 年の後、資格を有する研修施設において通算 4 年以上の形成外科研修を行うこと。4 年以上ひきつづいて日本形成外科学会正会員であること
- (3) 第 19 条に定める研修を終了し、第 20 条に定める記録を有するもの
- (4) 日本形成外科学会主催の講習会（学術研修会あるいはインストラクショナル・コース）受講証明書を 4 枚以上有すること

第19条（研修の条件）

1. 研修期間

形成外科研修は4年以上とする。但し義務化された臨床研修期間中の形成外科研修は含まない。この規程は第98回日本国医師国家試験合格者以降の者に適用する。それに該当しない者については、これと同等以上の形成外科研修を終了したと専門医認定委員会が認定したものは可とする。ただし、大学院生などの研修期間に関しては、週4日以上形成外科の臨床研修に携わったものはフルカウントできる。なお、臨床研修が週3日のものはその年限の3/4を、週2日のものはその年限の1/2を、週1日のものはその年限の1/4をカウントするものとする。研修の実状は当該科の所属長、または施設長が責任をもって認定する。なお、申請内容に疑義が生じた場合、専門委員会で審議することがある。

2. 研修施設

形成外科研修については、学会が認定した形成外科研修施設、あるいはこれと同等以上と認めた国外の施設とする。ただし、学会が認めた認定施設で最低2年以上の研修を必要とする。その他の臨床研修については、厚生労働省の定める臨床研修指定病院、またはこれに準ずる病院とする。

第20条（研修記録）

第18条第3項の記録とは研修期間に行った次の項目の記録をいう。

- (1) 申請者の受け持った患者で直接手術に関与した300症例の症例一覧表
 - (2) 申請者の受け持った患者で直接手術に関与した20症例の図を伴う症例記録
 - (3) 申請者が術者として手術を行った10症例についての所定の病歴要約
 - (4) (2)、(3)の症例は、認定施設あるいは教育関連施設で行った症例に限る
2. 前項(2)、(3)の症例にはそれぞれ以下の11項目中8項目以上を含まねばならない。
- (1) 新鮮熱傷（全身管理を要する非手術例を含む）
 - (2) 顔面骨骨折および顔面軟部組織損傷
 - (3) 唇裂・口蓋裂
 - (4) 手、足の先天異常、外傷
 - (5) その他の先天異常
 - (6) 母斑、血管腫、良性腫瘍
 - (7) 悪性腫瘍およびそれに関連する再建
 - (8) 瘢痕、瘢痕拘縮、ケロイド
 - (9) 褥瘡、難治性潰瘍
 - (10) 美容外科
 - (11) その他

ただし、同一症例の同一部位は、1項目としてのみ適用される。同一症例の同一部位は、一人の研修者の記録としてのみ適用される。同一症例であっても、疾患、部位が異なる場合は、この限りではない。

第21条（提出書類）

審査を受けようとするものは、以下の書類を定められた期日までに専門医認定委員会に提出するものとする。

- (1) 認定申請書ならびに所定の審査料
- (2) 日本国医師免許証の写し
- (3) 履歴書および業績（形成外科に関する論文）
- (4) 研修病院在籍証明書またはこれに代わるもの。認定施設の長が異動あるいは不測の理由で証明できない場合、病院長あるいは後任者が一括して研修期間を認定することができる
- (5) 第20条に定める症例の記録

- (6) 日本形成外科学会主催の講習会（学術研修会あるいはインストラクショナル・コース）の受講証明書4枚以上

第23条（認定審査）

専門医認定委員会は、以下の認定審査を行う。

1. 資格審査

専門医認定を申請するものが、第18条に定める資格を充足しかつ十分な研修を受けているか否か提出書類を基に審査する。

2. 試験審査

資格審査合格の者に対し以下の試験審査を行う。

- (1) 形成外科的一般知識に関する筆記試験を行う
- (2) 主に申請者の研修記録について口頭試問を行う

第33条（教育関連施設）ただし書

－前文省略－ ただし、教育関連施設における研修は、2年間のみ第19条にいう形成外科研修期間として認められる。

第34条（教育関連美容外科施設）

－前文省略－ 申請および条件は第33条にいう教育関連施設と同様であるが、教育関連美容外科施設における研修は1年のみ形成外科研修期間として認められる。

7. 申請書類作成上の注意

基本重要事項（必読）

申請書類ならびに審査基準は毎年改良を重ねていますが、未だに申請者の10～20%に**書類不備**が認められます。不備の内容は、**事務的資料**（研修歴・捺印など）と10, 20, 300症例の**臨床能力評価資料**（写真、画像、観察期間など）の両者に認められます。専門医には医師のみでなく社会人としての素養が求められ、十分に配慮された資料の作成と提出が必要です。一方、書類不備が多い申請者は、最終試験の結果も不良な傾向があります。これらの現状を踏まえ、**改めてこれまで継続してきました書類審査における重要事項を以下に掲載いたします**。本会告・Q & A、学会誌8月号掲載予定の「手引き」を熟読し、吟味精察された書類作成、さらには研修施設責任者等の校閲を受けて、提出していただけますようお願いいたします。

- 1) 事務的資料、臨床能力評価資料の不備は、過去においても最終審査（筆記・口頭試問）における減点の対象とされてきており、今後もこの方針は継続されます。過去の例から、減点された申請者の合格率は極めて低い傾向があります。
- 2) 事務的資料不備は必要資料不足とみなされ、書類受理自体ができない場合があります。また、締め切り後に提出された書類は受理できませんのでご注意ください。
- 3) 臨床能力評価資料不備において、10症例の明確な不備（マイナー2以上、症例分類8項目に満たない、指定研修病院以外での症例、提出必要写真・データの不備など）は書類審査で不合格になりますので、吟味して書類をご提出ください。
- 4) 事務的資料、臨床能力評価資料で不備多数の場合には、書類審査で不合格になることがあります。
- 5) 事務的資料不備は再提出を求めることがありますが、臨床能力評価資料の不備は本年度からの電子媒体申請に伴うセキュリティ面も含め**再提出は原則求めません**のでご注意ください。
- 6) 個人情報保護法などの倫理面から、10, 20, 300症例の個人情報の取り扱いは厳重にお願いいたします。なお、本年度からの電子媒体申請に伴い、患者IDや施設名などの取り扱いを変更いたしますので、学会誌8月号掲載予定の「手引き」を参考に対応をお願いいたします。

- a) 一般的注意（申請書類提出方法の詳細は8月号に掲載予定の「手引き」でご案内する予定です。変更の可能性もありますので、必ず手引きをお読みくださいますようお願いいたします）
- 1) 申請書類はファイルのテンプレートに従って入力してください。自署・捺印の必要な書類はプリントアウトし、黒インク、黒ボールペンを用いて署名、捺印の上、提出してください。これらのテンプレート入力方法の詳細も「手引き」をご参照ください。
 - 2) デジタルデータは、「手引き」に記載された方法で、セキュリティ USB メモリーに保存してください。
 - 3) 年月日は西暦で統一してください。
 - 4) 全項目について、記入漏れのないように慎重に確認してください。
 - 5) 経歴証明書は、それぞれの1件について1枚記入してください。（学会入会年月日をご確認の上、研修証明書を作成してください）
 - 6) 形成外科研修については、研修施設ごとに経歴証明書を記入し、9ケタの施設認定番号を必ず記入してください。
 - 7) 同一施設内の他科所属における研修の取り扱いについては、形成外科指導医のもとに研修を行っていれば認められます。詳細はQ&Aをご覧ください。
 - 8) 経歴証明者は当該科の所属長、または施設長です。（認定施設の長が異動、あるいは不測の理由で証明できない場合、病院長あるいは後任者が一括して研修期間を認定することができます）
 - 9) 大学院生などの研修期間に関しては、週4日以上形成外科の臨床研修に携わったものはフルカウントできますが、臨床研修が週3日のものはその年限の3/4を、週2日のものはその年限の1/2を、週1日のものはその年限の1/4をカウントするものとします。研修の実状は当該科の所属長、または施設長が責任をもって認定します。なお、申請内容に疑義が生じた場合、専門医認定委員会で審議、調査することがあります。
 - 10) 押印箇所に押印のない書類は「書類不備」とみなされますので、提出前に押印漏れがないか、しっかりと確認してください。
 - 11) 過去に受験経験がある方は、前回の書類様式で申請することはできません。すべて「手引き」に記載された様式で新たに作成し提出してください。また、審査基準は年度ごとに改定されるため、前回とまったく同様の内容や症例で提出された場合、不合格になることがよくみられます。「手引き」・Q&Aを熟読後に、再度書類内容を吟味して、新しく作成して提出してください。
- b) 300 症例
- 1) 10 症例、20 症例と重複して構いません。
 - 2) 経歴証明書に記載された施設以外での症例でも可です。
 - 3) 執刀者以外、助手であった症例も認めます。平易な手術手技でも可です。ただしレーザーに限っては30症例までとします。
 - 4) 300症例の一覧表は申請書ファイルの中にあります。入力方法は「手引き」を参照してください。
- c) 20 症例
- 1) 資格審査・口頭試問の対象となります。
 - 2) 『経歴（在籍）証明書』に記載された施設以外での症例も、20症例として提出することは可能です。出張病院での症例も認められますが、認定施設、教育関連施設、教育関連施設美容外科に承認された施設に限ります。（新専門医制度の専門研修連携施設の基準とは異なりますので注意してください）
 - 3) 提出症例では、症例分類の11項目中8項目以上を含む必要があります。（専門医制度細則第20条）

- 4) 20 症例の記録は申請書ファイルの中にあります。作成方法は「手引き」を参照してください。
 - 5) 10 症例と重複しないでください。
- d) 10 症例
- 1) 資格審査・口頭試問の対象となります。
 - 2) 『経歴（在籍）証明書』に記載された施設以外での症例は、10 症例として提出することは不可ですので注意してください。出張病院での症例も認められません。認定施設、教育関連施設、教育関連施設美容外科に承認された施設に限ります。（新専門医制度の専門研修連携施設の基準とは異なりますので注意してください）
 - 3) 基準を満たさない症例が含まれた場合は、原則として不合格となりますので注意してください。
 - 4) 10 症例の写真の作成・提出に対しては以下の点に留意してください。また、Q & A も必ず熟読してください。
 - a) 10 症例はすべて術後 180 日以上経過した写真を必ず提示してください。
 - b) すべての症例に術前・術中・術後の写真を提示してください。術前とは原則として麻酔導入前とします（挿管後や全身麻酔下の写真は術前写真として認めません）。ただし、他科から依頼された同時再建症例、乳幼児や指示に従えない症例などは、麻酔後の写真でも認めます。術中写真とは、原則として執刀開始から縫合終了前までの手術の途中経過を示す写真とします。デザインと縫合終了直後は術中に含まれません。
 - c) 写真はカラー写真が望ましく、目的とする部位と変化が分かるものに限ります。
 - d) 提示の写真にはいつ時点で撮影したのかが分かるように、配布予定のテンプレートに従って「術前（or 術中 or 術後）写真 20 × × 年 ○ 月 △ 日撮影」と必ず入力してください。
 - e) テンプレートに合わせて可能な限り同一方向、同一サイズにしてください。（「手引き」参照）
 - f) 特に術後写真のフォローアップ日数の 180 日以上は厳守してください。
術後 178 日経過写真のように、ほぼ 180 日経過していたとしても、180 日以上経過とは認められません。経過日数はしっかりと 180 日以上経過しているかを算出し、術後 6 ヶ月のものは『術後 ○ ○ ○ 日経過』と入力して、提出してください。
また、1 疾患に対し予定手術で 2 回、3 回…と複数回手術を行っている場合（エキスパンダー手術、切離・修正を要する皮弁移植手術など）は、最後の手術日から 180 日以上経過写真を提出してください。
Q & A も参照してください。
 - g) 上顎骨や下顎骨の骨折手術や骨切り術など咬合が関与する手術は、原則として術前、術後の咬合写真が必須です。ただし、術前鎮静下にある例や重症骨折例の術前咬合写真は、全身麻酔下の写真でも可とします。
 - h) 皮膚移植は、採皮部の術後の状態が分かるように写真（術後 180 日以上必須）を貼り付けてください。
2010（平成 22）年 1 月以降の症例に関しては、写真を提示していないと不可とします。
それ以前の症例で写真がない場合、詳細な説明を入れてください。
また、その他の組織採取部（皮弁、骨、軟骨、脂肪、筋肉、筋膜など）も同様の扱いといたします。
 - j) 眼瞼の症例は、開瞼、閉瞼の両方の写真を提示してください。
 - k) 原則として写真の差し替え・再提出・追加、術後日数の修正は認めません。
 - 5) 申請者が執刀した形成外科における優れた技能を示す代表的な症例を提示してください。（平易な手技による手術症例は避けてください）

- 6) 主たる手術手技が、単一手術手技になり過ぎないように、同一部位の手術に偏らないように注意してください。

同一部位かつ同一手技の症例は1例に限ります。

- 7) **20 症例と重複しないでください。**

- 8) 診断名は、病理組織診断名を含めて詳細に記入してください。

- 9) 手術記録は、写真とシェーマで明確に詳しく記入してください。

(術中写真のみで示せていないことについては手術の計画が分かるように、随時必ずシェーマをつける必要があります)

- 10) 熱傷では、熱傷面積(%)を付記してください。全身熱傷の非手術例では、熱傷面積、深度のほか全身管理を行ったことを示す補液量、投薬、尿量、体温変化、血液データなどが分かる温度板などを必ず添付してください。

- 11) 皮膚移植(分層)に対しては、移植した皮膚の厚さを明記してください。

- 12) 術前術後の放射線画像は原則同じ方法で撮影されたものを提示してください。

- 13) 骨に関する症例は、術前、術後のX線写真(術後90日以上)を貼り付けてください。

(フィルムは不可とします) 2016(平成28)年8月以前の症例に関しては、90日以内のX線写真でも術後の治癒状態が分かるものであれば可とします。

- 14) 唇裂では、初回手術、2次手術を問いません。

- 15) 口蓋裂では、術後の言語評価もしくは術後写真が必要です。

- 16) 11項目分類の項目5(腫瘍・母斑・血管腫)として提出する症例は、病理診断名と病理所見を記入し、組織写真を提示してください。

- 17) 手術術式は、正確に記入してください。

たとえば、○○形成術などの曖昧な表現は避け、適切な手術内容を示す手術手技名を用いてください。

- 18) 平易な手技の症例はマイナー症例とみなします。

10 症例中、2 症例以上にマイナー症例がある場合には、原則として不合格とします。

- a) レーザー症例はマイナー症例とみなします。

- b) 糖尿病や末梢血管障害などを伴わず、切断レベルに関する詳細な検討を要さないような単なる四肢切断術は、マイナー症例とされる場合があります。

- c) マイナー症例を生じ、その分野で代表的執刀例がなくなったことで8項目を満たせなくなれば、書類が条件を満たさないと判断します。(マイナー症例が1症例の場合、残り9症例で8項目を満たさなければ不合格となります)

- 19) 写真、X線などの必要条件は、施設個別の事情を斟酌しません。必ず提出してください。

- 20) 書類審査過程で提出資料に疑義が発生した場合には、記載事項確認のためにカルテの写し、日付が確認できるX線、CT写真のコピーなどの提出を要求することがあります。

- 21) 専門医認定審査に関連する新しい情報が発生した際、日本形成外科学会ホームページにて、随時掲載を予定していますので、以下 URL 先の「TOPICS」を頻繁にチェックすることを推奨いたします。

特に電子媒体での提出方法については細かい仕様変更の可能性あります。

日本形成外科学会ホームページ< <http://www.jsprs.or.jp/>>

8. 個人情報の取り扱いについて

- 1) 申請書類は3年間事務局にて保管した後、破棄(溶解処理)いたします。保管・廃棄にあたっては個人情報保護法を遵守します。
- 2) 一般社団法人日本形成外科学会個人情報保護方針に基づき、収集した個人情報は専門医認定審査の目的に利用し、他の目的には利用いたしません。

- 3) 申請書類作成に際しては、電子媒体を利用したり、施設外へ情報を持ち出したりすることにより盗難や紛失等の機会も増えます。申請者は、特に10症例には要配慮個人情報（機微情報）にあたる可能性のある情報が存在するので、データを暗号化するなどして厳重に取り扱うようお願いいたします。
- 4) 個人が特定される可能性のある症例については、患者への十分な説明のもとに承諾をお取りくださ
い。

9. 問い合わせ先（質問などがあれば、近くの認定委員にお尋ねください）

専門医認定委員名と E-mail ◎印は委員長

赤松 正（東海大学） akamatu@is.icc.u-tokai.ac.jp	秋元 正宇（日本医科大学千葉北総病院） akimoto@nms.ac.jp
今井 啓介（大阪市立総合医療センター） imai-k@abox3.so-net.ne.jp	大久保文雄（昭和大学） fohkubo@med.showa-u.ac.jp
垣淵 正男（兵庫医科大学） mkaki@hyo-med.ac.jp	◎木股 敬裕（岡山大学大学院） ykimata@cc.okayama-u.ac.jp
清澤 智晴（防衛医科大学校） xoo@ndmc.ac.jp	小室 裕造（帝京大学医学部附属病院） ykomuro@med.teikyo-u.ac.jp
島田 賢一（金沢医科大学） shimaken@kanazawa-med.ac.jp	関堂 充（筑波大学大学院） msekido@md.tsukuba.ac.jp
多久嶋亮彦（杏林大学） takushima-pla@umin.ac.jp	武田 啓（北里大学） takeda@kitasato-u.ac.jp
田中 克己（長崎大学） katsumit@nagasaki-u.ac.jp	三川 信之（千葉大学） nmitsu@air.linkclub.or.jp
宮脇 剛司（東京慈恵会医科大学） caritakm@jikei.ac.jp	森本 尚樹（関西医科大学） morimotn@hirakata.kmu.ac.jp
安田 浩（産業医科大学） h-yasu@med.uoeh-u.ac.jp	四ツ柳高敏（札幌医科大学） yotsuyanagi@sapmed.ac.jp

以上